東京国立近代美術館　収集方針

東京国立近代美術館本館では、19世紀末から今日までの日本画、洋画、彫刻・立体造形、版画、水彩・素描、写真、映像作品を、日本を中心に、日本に影響を与えた海外作家の作品も合わせ収集している。年度計画の中では、①1970年代以降の日本と海外の作品の収集、②日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集、③1900～1940年代の日本画などの収集に特に注力することになっており、令和３年度は①について、青木野枝、横溝静、オノデラユキと、いずれも現在活躍中の女性作家の作品を収集し、多様化する現代の美術の動向をより広く紹介することが可能となった。また②として、長く国内の個人蔵であったパウル・クレーの作品を収集し、海外流出を防ぐことができた。③として、速水御舟、竹内栖鳳について、いずれも作家のキャリアにおける重要作を収集できた。

国立工芸館では、文化庁からの管理換えによる伝統系の作品を核としつつ、近代以降現代にいたる展開や時代ごとの動向を示す工芸及びデザイン作品を収集し、その歴史的な流れが概観できるコレクションの形成を目指している。令和２年度は、明治期の輸出工芸の典型を示す作品として、初代山川孝次の《金銀象嵌環付花瓶》（1877 年頃）を購入した。明治の輸出工芸の特徴的な在り方を示す本作品の購入により、明治期の工芸作品の充実をはかることができた。しかしながら、絶対数としてまだこの時期の作品が不足しているために、引き続き調査研究ならびに獲得可能な作品の探索を続ける。また、近代陶芸を代表する作家・加藤唐九郎の《鼠志野茶盌　銘 鬼ガ島》（1969年）を購入した。本作は加藤唐九郎の代表作で、赤土に志野釉を掛けた鼠志野の技法の一種が用いられている。加藤唐九郎は桃山時代等の古い陶器に規範を求めて作陶し、近代作家としての自己の表現を確立していった作家として、荒川豊蔵や金重陶陽らとともにその後の陶芸家に影響を与えた一人であったが、いまだ十分な評価がなされていない。これまで人目に触れる機会が限られていた本作を購入し、国民の鑑賞機会を確保するとともに、作家の研究を進めることが可能となった。

東京国立近代美術館　美術作品購入一覧（令和３年度）

＝特別予算購入

1	種別	日本画
	作者名	速水御舟□(1894-1935)
	作品名	渓泉二図
	制作年	1921年
	材質・形状	紙本彩色・軸（双幅）
	寸法	各50.8×45.3cm
	解説	大正から昭和初期にかけて日本画の変革を推進した速水御舟による、細密描写を特徴とする風景画。点描とハッチングを主体とした色彩表現など実験性の高い一品。
	取得額	237,600,000円
	展示予定	展示（所蔵作品展；2022年5月17日-7月24日）
2	種別	油彩その他
	作者名	パウル・クレー□879-1940)
	作品名	黄色の中の思考
	制作年	1937年
	材質・形状	油彩・綿布に油性下地
	寸法	98.0×47.0cm
	解説	近代美術史上の重要作家、パウル・クレーの大作。色面を線で抽象的に分割する中から具体的形象が現れ出てくる、クレー晩年の代表的作風を良く示す。
	取得額（円）	297,000,000円
	展示予定	展示予定（所蔵作品展；2023年3月-5月）
3	種別	彫刻
	作者名	青木野枝□958-)
	作品名	雲谷 2018-I
	制作年	2018年
	材質・形状	鉄
	寸法	207.0×163.4×150.0cm
	解説	1990年代以降、日本を代表する彫刻家の一人である青木野枝の近作。円を層状に溶接した、青木に特徴的なスタイルを凝縮した作品。
	取得額（円）	—
	展示予定	計画中

4	種別	映像
	作者名	横溝静(1966-)
	作品名	That Day / あの日
	制作年	2020年
	材質・形状	シングルチャンネル・ヴィデオ、ライティング　Ed.：1 of 5 ＋1 AP
	寸法	12分19秒（ループ）
	解説	ロンドンを拠点に活躍する作家、横溝静による映像作品。東日本大震災をモチーフに、写真におけるイメージの生成と消滅、人の記憶の生成と消滅などを重ね合わせた思索的な作品。
	取得額（円）	—
	展示予定	計画中
5	種別	写真
	作者名	オノデラユキ(1962-)
	作品名	Transvest - Wyan
	制作年	2005年
	材質・形状	ゼラチン・シルバー・プリント ed. 4/7
	寸法	199×128cm
	解説	写真というメディアの持つ可能性を実験的に探求する作品で評価の高いオノデラユキ。本作は雑誌などの印刷物を人型に切り抜き、空間につるして逆光で撮影したシリーズからの一点。
	取得額（円）	—
	展示予定	計画中
6	種別	写真
	作者名	オノデラユキ(1962-)
	作品名	Transvest - David
	制作年	2005年
	材質・形状	ゼラチン・シルバー・プリント ed. 1/7
	寸法	188×128cm
	解説	写真というメディアの持つ可能性を実験的に探求する作品で評価の高いオノデラユキ。本作は雑誌などの印刷物を人型に切り抜き、空間につるして逆光で撮影したシリーズからの一点。
	取得額（円）	1,848,000円
	展示予定	計画中
7	種別	写真
	作者名	オノデラユキ(1962-)
	作品名	Muybrigdge's Twist No.21
	制作年	2019年
	材質・形状	木炭、パステル、クレヨン、写真コラージュ／キャンバス
	寸法	304×209cm
	解説	写真というメディアの持つ可能性を実験的に探求する作品で評価の高いオノデラユキ。本作は人や動物の運動を撮影した19世紀の写真家エドワード・マイブリッジの連続写真に着想を得た一点。
	取得額（円）	—
	展示予定	計画中

8	種別	陶磁
	作者名	北大路 魯山人□(1883-1959)
	作品名	紅白椿鉢
	制作年	1938-40年
	材質・形状	陶器、色絵
	寸法	h21.3×w43.0×d41.8cm
	解説	金沢とのゆかりも深い北大路魯山人は、書・陶芸・漆芸・篆刻・料理など、様々な分野で才能を発揮し、後進にも大きな影響を与えたマルチな芸術家。本作は魯山人作品を代表する「椿鉢」の中でも最大級で、器形の美しさ、図案やコンディションの良さに、とくに優れている大鉢である。
	取得額（円）	59,290,000円
	展示予定	展示予定（こどもとおとなの自由研究　工芸の○△□×展にて：7月初旬～9月初旬）
9	種別	陶磁
	作者名	六代 清水 六兵衛□(1901-1980)
	作品名	嵯峨野花瓶
	制作年	1952年
	材質・形状	陶器、色絵、金彩
	寸法	h42.3×w33.1×d33.1ｃｍ
	解説	六代清水六兵衛は、伝統に立脚しながらも時代感覚を反映した新しい技法の開発に意欲を燃やし活動を展開した日展工芸部を代表する陶芸家。本作の共箱には、自らが「昭和二十七年第八回日展出品作にして最も快心の作なり」と書きとめている。その後の新釉のきっかけをも掴んだ代表作である。
	取得額（円）	1,980,000円
	展示予定	「未来へつなぐ陶芸」展出品
10	種別	陶磁
	作者名	バーナード・リーチ□(1887-1979)
	作品名	Donburi（楽焼葡萄文鉢）
	制作年	1919年
	材質・形状	楽
	寸法	h9.7×ｄ23.3cm
	解説	バーナード・リーチは日本の近代工芸史を紹介するうえで欠かせない陶芸家。本作はリーチが本格的に活動する前に制作された楽焼の鉢で、やきものに触れたばかりのリーチの視点や考えが見て取れる資料的にも貴重な作品。
	取得額（円）	1,100,000円
	展示予定	展示予定（工芸館と旅する世界展：12月下旬～翌2月下旬）
11	種別	漆工
	作者名	黒田 辰秋□(1904-1982)
	作品名	乾漆耀貝螺鈿食籠
	制作年	1974年
	材質・形状	漆、耀貝、螺鈿
	寸法	h16.0×ｄ26.0cm
	解説	黒田辰秋は、民藝運動にも参加する一方、卓越した技量により現代的な造型性をも盛り込んだ作品を発表し続けた木工家で、重要無形文化財「木工芸」の保持者。本作は、耀貝を全面に施した大振りな食籠で、黒田の耀貝作品を代表する1点。1974年の第21回日本伝統工芸展出品作。
	取得額（円）	14,300,000円
	展示予定	展示予定（MOMATコレクション薫風の季節／没後40年 黒田辰秋：5月中旬～7月下旬）

12		
	種　　別 ：	漆工
	作　者　名 ：	二十代 堆朱 楊成□(1880-1952)
	作　品　名 ：	存星白龍文平卓
	制　作　年 ：	1940年
	材質・形状 ：	漆、存清、蒔絵、平文
	寸　　法 ：	h13.0×w60.0×d42.0cm
	解　　説 ：	平卓の天板に白龍の姿が、堆朱技法にとどまらず、蒔絵や平文といった各種の漆芸技法を用いて描き出されている。渡来品の模倣ではなく、近代の創作性を重視した二十代堆朱楊成の制作姿勢が示された代表的作品に位置づけられる。
	取得額（円） ：	2,400,000円
	展示予定 ：	展示予定（常設展松田権六コーナーにて：１２月下旬～翌２月下旬）

他14点／計26点　購入総額：644,181,467円